

実りのとき



せたな町には、「後志利別川」を中心に数多くの清流が流れ、北は狩場山、南は遊楽部岳などに囲まれた美しい田園地帯が広がり、自然豊かな環境の中で農業が営まれています。

豊かな自然環境の中で「米」をはじめ、馬鈴しょ、大豆、小豆などの「畑作物」、ホウレンソウ、ブロッコリー、大根などの「野菜」、生乳、牛肉、豚肉などの「畜産物」など、多様な農畜産物が生産されています。

そして、有機農業や自然栽培、放牧畜産などの特色ある農業経営も営まれ、地域農業に彩りを添えています。

農業産出額は約40億円で、町内全ての産業の販売額約190億円の3割を占めており、漁業とともに町の主要産業の一つですが、農家戸数は年々減少しており、高齢化も進んでいます。このため町としても産業担い手育成対策事業など、さまざまな支援をしています。

収穫時期を迎え、米をはじめ実りの多いこの時期、農業に関わるさまざまな立場の方から、そのこだわりや課題について取材しました。

「基本技術」を大事にする

米と高収益野菜

今、米では新しい品種として生産者の皆さんが取り組んでいるのが「ゆめぴりか」です。

米は収穫後、ホクレンを通じて販売していますが、「地産地消」として農協の施設で精米した米を町内の皆さんに提供しています。Aコープきたひやま店では、新米が収穫される時期に新聞折り込みのチラシで米の予約取りまとめをしていますので、皆さんにおいしいお米を食べていただきたいと思っています。

米以外では牛乳や馬鈴しょの生産が多く、施設野菜では輪作物を取り入れながら主にホウレンソウの生産に取り組んでいます。ホウレンソウはハウスで生産すると年に二回三回と収穫でき、軽量なので高齢になつて



Aコープきたひやま店「もぎたて市」には、毎日新鮮な野菜が並んでいます。

も比較的作業がしやすい高収益の魅力ある野菜です。また露地野菜ではブロッコリーに生産者の方が取り組まれています。収穫された農産物は道内外の市場に出荷されていますが、町内の皆さんには、Aコープきたひやま店の「もぎたて市」コーナーで毎朝収穫した新鮮な野菜を販売しています。



北檜山町農業協同組合 営農部長

森 文弥 さん

今後の課題

町の支援である、産業担い手育成対策事業を活用して就農した方もいます。せたな町を選んで農業を始めようとする方にとってはありがたい支援だと思っています。これからも、より魅力ある町にしていきたいと思います。我々も協力していきたいと思っています。今後の課題はいろいろありますが、基本技術を見直しながら、安定した収量を確保し、健全経営を図る。やはり基本技術を大事にしていきたいですね。

ブランド名は「北の白虎」

自信の「コメ」

「北の白虎米」のパッケージで販売しているのは、この地域で収穫された米100%のブランド米で、この愛称で販売しているのは町内だけなんです。

この「北の白虎米」は、店舗での販売や、毎年8月に行っている「北の白虎まつり」など各区のイベントで地域のブランド米として「北の白虎米」をPRさせてもらっています。今年の「北の白虎まつり」もたくさんの方の来場者で盛況に開催できました。これからはお世話になっている皆さんへの感謝の気持ちを込め、よいものを安く還元し、楽しんでいただけるよう続けていきたいと思っています。このブランド名は、米の他にも馬鈴しょ、今年からは花にも、「北の白虎」として出荷しています。



新函館農業協同組合若松支店 営農センター長

沖崎 篤 さん



「北の白虎米」は地元で収穫された100%地元産のブランド米

今後を見据えて

どこも同じ状況があると思います。生産者が高齢化していくことから、担い手対策など課題が色々あります。その取り組みの一つとして直播栽培があります。直播栽培とは、苗を育てて水田に植えるのではなく、水田に直接種をまく方法です。これにより、春の作業が軽減され、その労力を他の作業に有効活用できます。また苗を育てるハウスなどの設備が不要であるなどのメリットがあります。この直播栽培について、これからの担い手となる若い世代が協議会を作って取り組んでいます。さらに今後は、農業生産を共同で行っていく集落営農などの取り組みも検討が必要だと考えています。